

令和7年度 第2回 静岡県立浜松湖南高等学校 学校運営協議会議事録

1 日時 令和7年10月29日(水)

2 場所 静岡県立浜松湖南高等学校 応接室

3 委員(敬称略)

渥美和弘(浜松市中央区雄踏協働センター所長)

小杉大輔(静岡文化芸術大学教授)

坂田雄章(元自治会副会長・元中学校長)

島野知厚(令和6年度PTA会長)(欠席)

杉山哲也(河合塾浜松校 校舎運営チームチーフ)

松本雅美(ムンド デ アレグリア学校 理事長兼校長)(欠席)

山下譲(浜松国際交流協会事務局長)(欠席)

*事務局(学校職員)

神村佳代校長、佐藤敦副校長、山崎一憲教頭、河合宏明事務長

土屋尚子生徒指導主事

4 次第

(1) 校長挨拶

(2) 議事

○学校の近況について

[生徒指導主事説明] 部活動

《委員質問・意見》

・大学進学後もボートを続けている生徒はいるのか。

→<事務局>進学先の環境によることもあり、続けている生徒は、
あまりいない。

[副校長説明] 進路

[副校長説明] 英語科(2年生豪州研修、1年生サマーセミナー)

[副校長説明] 国際交流(ムンド・デ・アレグリア校、ヘンドン校)

[副校長説明] 令和7年度HAMANAN 探究コンソーシアム

[校長説明] 聖隷クリストファー大学との高大連携協定

《委員質問・意見》

・見通しを持って、学校運営にあたっていることがよくわかる。

(3) 授業参観

(4) 意見交換

《委員質問・意見》

- ・生徒がいい顔をしていた
- ・3年生は受験に臨む顔つきだった。
- ・ヘンドン生が来校し、一緒に授業を受けていて、活気があった。
- ・ヘンドン生のことも考えた授業をすることは、職員の力になると思う。
- ・中学校で部活動の地域移行の話が進んでいる状況を考えると、これから、部活動とは別に、高校の魅力をどのように高めるかが課題になってくる。
- ・湖南高校にはいろいろな特色があると感じる。
- ・湖南高生は、落ち着いた環境で学ぶことができている。生徒の良さを外部にうまく伝えられるとよい。
- ・探究的な学びが活発に行われていると感じた。
- ・基礎的な学びと、探究的な学びは両輪と考えて取り組むことが大切と思う。

(5) 諸連絡